

## 研ぎ澄まされた技が新たな世界を拓く

えちぜんうち は もの 越前打刃物 × さ じ た け し 佐治 武士(初代) [福井県越前市]

今から700年ほど前、京都の刀匠千代鶴國安が越前の地で刀剣、鎌などを制作したことが始まりとされます。以来、包丁やナタなど生活道具を中心に刃物産地として発展してきました。一時は安価な工業製品に押され、大幅に注文が減ってしまいましたが、佐治武士(初代)さんが欧米で人気のカスタムナイフに挑戦し、高い評価を得たことにより、今では欧米のみならずアジア各国からも注文が寄せられるまでになっています。現社長の野村さんは、意欲をもって自分の作品作りに取り組むことができるよう、顧客の生の声が聴ける展示会には必ず若手を参加させているそうです。佐治武士(初代)さんが蒔いた職人の心は、後進の育成を通じて着実に受け継がれています。



●カスタムナイフへの挑戦が、越前打刃物の技術を世界に知らしめることになった。



●ステーキナイフとフォークのセット。ナイフの切れ味は、料理の楽しさを演出する。



●個性豊かなペティナイフは、欧米でたいへん人気がある。



●刃に浮かび上がる独特のデザインが大きな魅力となっている。



●一人の職人がすべてを手作りする。それでこそ世界で一つの作品となる。



左から現社長・野村和生  
会長・佐治武士(初代)  
佐治直也(2代目 佐治武士)

### 佐治 武士(初代) 株式会社佐治打刃物 (創業1916年) 会長 伝統工芸士

1948年、福井県越前市生まれ。鍛冶訓練校で基礎を学ぶ。卒業後、実家の工房にて父・春吉に師事し腕を磨く。和式ナイフ、カスタムナイフの制作をきっかけに、世界から脚光を浴びる。刃だけでなく柄、ケースなど、すべて一貫して制作することによって、独自の世界観を築いた。すでに現場は野村社長に任せているが、後進の育成はもとより、新しい作品づくりに取り組み続けている。

#### 【株式会社佐治打刃物】

福井県越前市池ノ上町第45号12番地

電 話 0778-24-1651